◎共創センターの記念シンポジウムを開催 茨城大学人文学部

茨城大学人文学部の市民共創教育研究センターの発足記念の講演会・シンポジウム「我



がまちの将来ビジョンを語る一市民共創教育研究センターへの期待」 が11月2日午後に人文学部内で開催され、100人を超える参加者が 集まり、白熱した討議が続く中で、盛況のうちに終了した。

シンポには、小林宣夫茨城町長、小谷隆亮大洗町長、内田俊郎鹿 嶋市長、草間吉夫高萩市長、大久保太一常陸太田市長、三次真一郎

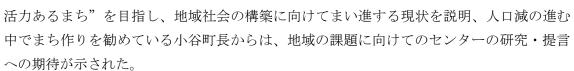
常陸大宮市長、高橋靖水戸市長の 7 首長が出席、人文学部側からも伏見厚次郎学部長、斎藤義則同センター長・教授などが参加した。

シンポは、佐川泰弘評議員・副学部長の司会役で午後 1 時にスタートした。冒頭、伏見

学部長が開会の挨拶をし、記念講演には NPO 法人の竹本徳子ナチュラル・ステップ・ジャパンの代表理事が登場、持続可能な街づくり向けて努力する北欧スウェーデンの先進的なケースを紹介した。

講演終了後に斎藤センター長が、センターの中身や 役割などについて説明、午後 2 時半過ぎから、茨城県 内の7首長をパネリストによる討議が始まった。

トップバッターに立った小林町長は、"安全・安心で



内田市長からは、震災に強いまちづくりがキーワードの鹿嶋市の将来ビジョンの説明があり、草間市長からは、野心的な「こころの里 City」構想が示された。センターへの期待



について、大久保市長は、「地域の課題等の整理」など、 三次市長からは、「集落支援対策、人材育成などへの協力」が指摘された。高橋市長からは、大学・学生を巻き 込んだまちづくりへの期待が示された。

シンポに先立って、「茨城大学 人文学部と茨城県自治体との円 卓会議に関する申し合わせ」に、

出席した7首長と茨城大学側が調印した。シンポの撮影には、村上ゼミのゼミ員が当たった。

